

二〇二三年度

中学校 国語

〈注意〉

- 一 開始の合図があるまで、問題用紙、解答用紙に手をふれないでください。
- 二 答えは、すべて解答用紙に書いてください。
- 三 受験番号は、算用数字で書いてください。名前は書かなくてください。
- 四 解答用紙に、解答と受験番号以外のことを書いてはいけません。
- 五 字数に指定のあるものは、句読点、かつこも一字とします。
- 六 問題用紙、解答用紙を持ち帰ることはできません。
- 七 問題は、一ページから十七ページまであります。
- 八 解答時間は四十五分です。
- 九 物を落としたとき、体調が悪くなったとき、何か質問があるときは、だまって手をあげてください。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（出題のために一部文章をかえています）

【ここまでのあらすじ】

いつも元気で、毎年、祭の神輿みこしを担かついでいたとうちゃん。そんなとうちゃんが去年突然死とつぜんんでしまう。当時六年生だった陽介ようすけは、かあちゃんと、妹の陽菜ひな（六歳さい）の三人で暮らすことになる。生活のために忙いそがしく働くかあちゃんと、幼い陽菜を守ることに懸命けんめいになる陽介。中学になって、家族を最優先に守りたい一方で、あきらめなきやいけないことも増えていく。そんな陽介に、かあちゃんが「あきらめるんじゃないやなくて、選ぶの。考えて、ちゃんと自分で」と声をかける。

とうちゃんの夢を見たのは、昨日が初めてだった。かあちゃんも陽菜も、これまでに何度か、とうちゃんの夢を見ている。

かあちゃんは、とうちゃんとふたりで花火をした夢や、家族で海水浴に行ったけど、なぜかとうちゃんはパンツで泳ぐと言って聞かなかった、というわけのわからない夢を見たと言っていた。

陽菜は陽菜で、とうちゃんに（a）車をしてもらう夢を何度も見ている。

そんな話を聞きたびに、（b）がシクツとした。なんでオレの夢には出てこないんだよ。ふたり

のことが、うらやましくも、Aもあつた。

夢でもいい、とうちゃんの顔が見たい。「陽介」と、呼んでもらいたい。とうちゃんに会いたい。会って、もう一度話がしたい。とうちゃん、オレ、伝えたいことがあるんだよ。

神輿、担ごうと思う。言つてただろう、「中学生になつたらいっしょに担ごう」って。「気持ちいいぞ」って、がははって笑いながらさ。とうちゃんはバカみたいに、毎年毎年オレに言つていた。

なのに……。①なんで、素直にことばにしなかつたんだろう。なんで、とうちゃんをがっかりさせることしか、言えなかつたんだろう。

ガキのころはちがつていた。あのころは、「担ぐ担ぐ！」と、はしゃいでいた。はしゃいでいたけれど、本気だった。本気で担ぐんだと言つていた。汗だくになって神輿を担ぐとうちゃんは、とてつもなくかつこうよくて、たくましくて、ほこらしかつたから。

けれど、いつごろからだろう。そんなふうに、とうちゃんにむかつて素直になることができなくなつた。ことばを②テキトウにはぐらかし、かわし、思つていることと反対のことを（c）にした。

神輿のことだつてそうだ。オレはいいよ。めんどくせーもん。神輿より夜店に行きたいよ。そんなふうに言つて、とうちゃんをがっかりさせた。本気だつたわけじゃない。とうちゃんのことを嫌いになつたわけでもない。ただ、ガキのころより、とうちゃんがデカく見えてしかたがなかつた。怖^{こわ}かつたんだ。とうちゃんを見ていると、自分が小さく見えて。

そして今日もとうちゃんの夢を見た。話したいことはたくさんあつたはずなのに、なにも話せなかつた。オレ担ぐんだ。神輿、担ぐんだよ。

(中略)

神輿は来年は出ないかもしれない。そんな話を聞いたのは、おとといの部活の時だ。

「お神輿って、秋まつりの？」

オレの前の席で、スケッチブックのかわりに④ザッシを広げて、くつちやべっていた二年の女子の声
が耳に入ってきた。

「そっ、商店街のお店さ、閉めちゃうとこ増えたでしょ。⑤キフ金とか、あつまんないらしいんだよね。
担ぎ手も減ってるし」

「へー、不景気ってやつ？」

「そーそー、まあ別にうちらにはかんけーないけど」

そう言つて、ザッシをめくりながらケラケラ笑う。②思わ^{かた}ず目の前にある肩をつかんだ。シヨート
カットの女子が「わっ」と声をあげてふり返った。

「神輿って、北友会の？」

そう言つて身をのり出したオレの手をパンツとふり^{はら}払つて（d）をしめる。

「なんなの？」

あつ、「す、すみません。でも、あの。今の話、北友会のことですか？」

「北友会？」

「神輿の」

「ああ、なんだか知らないけど、来年からはお神輿出せなくなるかもって言ってたよ」

ショートカットの女子が言うのと、となりのポニーテールの女子がウンウンとうなずいた。

「マユんちのおじいさん、自治会長だからそーゆー情報早いんだよね」

うそだろ……。みぞおちにパンチを食らったみたいのに、一瞬^{いっしゅん}息ができなかった。とうちゃんが毎年担いでいた神輿だ。ガキのころからずっと見てきた。それがなくなる？ そんなこと、考えたこともなかった。

いつかは、いつかはきつと、オレも神輿を担ごうと思っていた。だけど、それはまだ先のことで。来年から神輿が出ない？ うそだろ、もう二度と、担げなくなるかもしれない。とうちゃんが担いだ神輿を、担ぐことができなくなる。そんなのイヤだ……。

(中略)

境内を出たところで、とうちゃんの神輿の仲間だった北友会の江口さんから手渡されたまつり半^{はん}てんに目をやった。とうちゃんと同じ半^{そで}てんだ。

ぱんつと半てんを広げて袖^{そで}とおし、肩にあるコブを㊦トクイそうに見せるととうちゃんの姿が目^めに浮かぶ。神輿コブだ。

「痛くないの？」と聞いたことがある。とうちゃんはオレの頭に手を置いて、勲章^{くんしょう}みたいなもんだと

笑った。あんなに強くて大きなとうちゃんの肩にコブを作るくらい、きついんだ。神輿を担ぐって。

オレに、いまのオレに本当にできるんだろうか。もし、最後まで担げなかったら……。

とんつ！

背中から太鼓たいこの音が聞こえた。腹おくの奥にズンと響ひびく。江口さんの音だ。がんばれ、がんばれよ、そんなふうに言われている気がした。

「ただいま」

アパートのドアを開けると、「おにーちゃん！」と部屋のなかから、陽菜おこの怒ったような声が聞こえてきた。あわててまつり半てんを靴箱くつばこのなかにつつこむ。

「どこに行ってたの！」

「ちよつとな、ほらじゃま、どけよ」

腰に手をあてて立っている陽菜を乱暴おに押しのけて、部屋に入った。まつり半てんを借りに行くことを黙だまっていたことに、思わず靴箱かくに隠したことに、うしろめたさを感じていた。

でも、あれを見たら、陽菜はきつと「とうちゃんのこといっしょだ」とはしゃぐだろう。うれしそうに
はしゃいで、まつりの日がくるのを待ちこがれて、とうちゃんみたいだね！とまつすぐにオレを見るだ
ろう。③それを受けとめる自信なんてない。期待されたくない。期待されて、それを裏切るのが怖い。
オレ、とうちゃんと同じなんて、できっこないよ。冷蔵庫から牛乳を取り出して胃袋いぶくろに流しこんだ。

「あ！ コップにいれなきゃいけないんだ！」

陽菜が口うるさく、なんだかんだと言ってくる。

「おにいちちゃん、うがいもしていない！ 手も洗っていない！」

うるさいな、うるさい……。

「かあちゃんに言いつけちゃうからね」

うるさい、うるさい、うるさい。

「いーけないんだ」

「うるさい！」

あっ……。陽菜の動きがぴたっと止まった。どなってしまった。無性にイライラして、おさえられなかった。そつと陽菜を見ると、陽菜は目を赤くして、オレを見ていた。にらんでいるようにも、おびえているようにも、ただ、驚おどろいているようにも見える。

「陽菜……」

オレが口を開くと、今度ははつきりと、ぎつとにらんで、トイレのなかに駆けこんだ。小さく息をついて、畳の上に寝転ねころがる。最悪だ。自分の不安を、自信のなさを。あせりを、陽菜にあたってしまった。やっぱりムリ、かな。やめたほうがいいんじゃないか？ 途中で投げ出してしまうくらいなら、最初からやらないほうがマシなんじゃないか？ 三日も考えて、迷って決めたのに、すぐにラクなほう、ラクなほうへと引つ張られる。そんなんじゃないダメだって、そう言いたくてとうちちゃん、夢に出てきたのかもしれない。とうちちゃんの仲間に、情けないところなんて見せられない。見せたくない。けど、もし今年担がなかったら。来年は出るかわからない……。

どんと^{たたみ}畳にこぶしをふるう。決めたんだ、自分で決めたんだ。なのに、なんでうじうじしてんだよ。がばっと起きあがる。㊤シセンを感じてトイレのほうを見ると、細く開いていたドアが、パタンと閉まった。ふっと笑った。

「陽菜、出てこいよ。ごめん。どなったりして。にいちやんが悪かった」
……。

「㊤にいちやんさ、神輿担ぐんだぞ、今度のまつり」

かちやつと鍵^{かぎ}を開ける音がして、静かにドアが開いた。

陽菜が顔を出した。

(いとうみく 『空へ』)

※注 まつり半てんⅡお祭りのときに着る半袖^{はんそで}の和服のこと。

問一 ―線部ㇿㇿㇿのカタカナを漢字になおして書きなさい。

問二 (a) (d) に入る言葉としてふさわしいものを次のア～キから選び、記号で答えなさい。

ア 耳 イ 口 ウ 顔 エ 胸 オ 肩^{かた} カ 手 キ 腰^{こし}

問三 A に入る言葉として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア なつかしく イ まぶしく ウ ねたましく エ くやしく

問四

——線部①「なんで、素直にことばにできなかったんだろう。なんで、とうちゃんをがっかりさせることしか、言えなかったんだろう」とありますが、その理由を本文中の言葉を使って、三十字以内で書きなさい。

問五

——線部②「思わず目の前にある肩をつかんだ」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 女子が部活中なのに、ザッシを広げてしゃべっていたから。
- イ 女子が神輿が来年から出ないかもしれないと話していたから。
- ウ 女子が神輿が出ないことを自分たちには関係ないと言ったから。
- エ 女子が神輿の担ぎ手が少なくなってきたと言ったから。

問六

B

 に入る言葉を漢字二字で考えて書きなさい。

問七 — 線部③ 「それを受けとめる自信がない」について次の問いに答えなさい。

(1) 「それ」がさしている内容を本文中の言葉を使って三十字以内で書きなさい。

(2) 陽介の「自信がない」気持ちが表れている行動を、この部分より前の本文中から二つ書きぬきなさい。

問八 — 線部④ 「にいちちゃんさ、神輿担ぐんだぞ、今度のまつり」と言ったときの陽介の気持ちとして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 陽菜に対して、自信のなさから、どなってしまったことを申し訳なく思っている。
イ 怒ってしまった陽菜に、機嫌をなおしてもうらおうと思っている。

ウ 自分で決めたことに対して、自信が持てなくて、本当は怖いと思っている。

エ 自分で決めたことに対して、あきらめず、やりぬこうと思っている。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（出題のために一部文章をかえています）

コロナ（新型コロナウイルス）の感染が拡大し始めたころ、医療従事者の親が子どもを保育園にアズけられなくなった。そんな①ホウドウがありました。・・・①
医療従事者の親に「子どもを通園させないでほしい」と言った園長は、おそらくまわりの親たちからあふれる「うつたらイヤだな」という空気に※注1そんたく付度したのでしようね。・・・②
まわりのみんなからの圧力に負けて、なにも悪くない親子を排除してしまった。

①コロナが現れる前は、ごく当たり前に大問題としてみんなが「それはまちがっている」と感じていた。た。だ。ろ。う。こ。と。で。す。でも、コロナ以降は「自粛警察」が出現して、「正義」をふりかざした差別がまかり通っている気がするんです。・・・③

コロナに感染することはだれだって不安。わたしもこわい。でも、それ以上におそろしいのは、そんな大人のすがたを目にして、「不安になったらだれかを排除してもいい」と子どもたちが学んでしまうことです。・・・④

A、先ほどの保育園の保護者が5人いて、その中に自分がいたとして、「自分事」に引き寄せて考えてみませんか。・・・⑤

②ほかの4人が「あの子が園に来たらうつるから、来ないように園長さんに頼もう」と言ったときに、自分はどのような行動をとるのか。

「自分ではそんなこと思いつかなかったけど、そう言われたらうちの子にうつたらこまる。いっしょに言いに行こう」

㊦ サンドウして行動に移すという考えもある。

「未知のウイルスだからうつるのはこわい。でもそれは言いすぎだわ。反対はできないけど、口裏だけあわせて自分は動かないでおこう」

あいまいににごして行動しないこともできる。

迷いますよね。確かなことは、「その子が感染しているかどうかはわからない」ということです。でも、わからないからよけい不安になる。・・・㊦

ただね、それが不安だと言いだしたら、家から一步出ると菌だらけ、ウイルスだらけで、スーパーに買い物にも行けません。その子を排除しても、ちがう場所で感染する可能性は㊧ フセげませんよね。

全国各地に配達している運転手さんの子どもが、学校から自宅待機を求められ、入学式に出られないというニュースもありました。

「ああ、なんかあったなあ、そういう話……」

そんなふうに目の前にある現実を他人事で終わらせる。これもまた、無自覚なまま親が子どもにまちがえた事を教えてしまうことになります。一人の子どもを排除して、まわりの子は安心して入学式を迎えられた。それがオッケーだという親のすがたから、子どもが学んでしまうから。・・・㊧

親の無責任のために子どもが「差別」や「偏見」^{へんけん}を持った人間に育ってしまう。大人が選択^{せんたく}をせまられたときに、

B

「とすれば、必ず子どもにそのしつぺ返しがきます。」

「自分の子がそんなことされたらイヤだから、やめておかない？」

一人の親がほかのだれかに言えば、その言葉が少しずつ広がっていきます。まちがった差別や排除や偏見を、子どもに教えなくてもすむ。

すべての親が、自分事に引き寄せて、親と子で「あなただったらどう？」という対話をするだけでも、子どもは必ず学びます。・・・8

コロナの感染症は大きな※注2さいやく 災厄です。そんな中だから、③「他人事を自分事に引き寄せる」とい

う「新しい発想」を持つことができる。

一人の自分は無力に感じるけれど、人間同士でつながっていけばチームができる。こまった中で④セツジツにつながった人たちのあいだに、小さなさざ波が起こり、やがて大きな渦うずとなって社会をまきこんでいく。

そんな行動を自分から起こす大人に、子どもはあこが憧れるんですね。・・・9

(木村泰子『「ほんとのこと」は、親にはいえない』)

※注1 付度Ⅱ他人の気持ちに見当をつけること。おしはかること。

※注2 災厄Ⅱ不幸な出来事。

問一——線部㉞㉟のカタカナを漢字になおして書きなさい。

問二——線部①「コロナが現れる前は、くだろうこと」とありますが、それはどんなことでしょうか。それが書かれている内容を、解答欄にある「こと。」につながるように本文中から二十八字でぬきだして書きなさい。

問三 A に入る言葉として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア けれども イ そして ウ たとえば エ また

問四——線部②「ほかの4人がくとるのか」とありますが、筆者はどういう行動をとってほしいと書いていますか。四十文字以内で書きなさい。

問五

B

に入る言葉としてふさわしいものを本文中から十八字でぬきだして書きなさい。

問六

——線部③「他人事を自分事に引き寄せる」ことについて語る太郎さんと園子さんの会話を読み、次の問いに答えなさい。

太郎..筆者の木村さんは、コロナのせいで大人たちがまちがった行動をとってしまったと語っているね。

園子..医療従事者の親子への言動のことね。実は、わたしの友だちにお姉さんが病院で働いている子がいるの。その子から「わたしが学校行ってもいやじゃない？」と聞かれたことがあったよ。

太郎..そのとき園子さんはなんて言ったの？

園子..「べつにー。」って言ったよ。でも、そのときは深いことはあまり考えていなかったかも。今あらためて考えてみると、もっと友だちの立場に立って考えた方が良かったと思う。

太郎..筆者の木村さんが言っている「自分事」で考えることだね。もう一度やり直したとしたらどんなふうに言うの？

園子..

C

「って言うかな。

太郎..いいね。そんなふうに言ってくれたら友だちも安心するね。

園子…筆者の本村さんは「他人事を自分事に引き寄せる」と書いてるけど、太郎さんはどう思う？太郎…コロナについてはぼくたちも当事者だよ。ぼくのお父さんの話なんだけど、知り合いのお好み焼き屋さんのお店が短時間しか開けないから、「いっしょにがんばろう」って手紙を書いて毎日とどけに行ってるんだって。そして、その帰りにお好み焼きを買ってくるんだ。だからお父さん、毎日お好み焼きを食べてるんだよ。

園子…大変なときだからこそ、ささいな一言でも、おたがいの心を温めてくれる言葉がけが大事だね。太郎さんと話していたらお好み焼きが食べたくなってきたなあ。

(1) Cに入る園子さんの言葉を、本文を参考に自分の言葉で考えて書きなさい。(字数に制限はありません)

(2) 本文中で「他人事」の例が書かれている一文をさがし、そのはじめの五字を書きなさい。

(3) 「自分事に引き寄せる」という行動と反対の意味を表すことわざを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 他山の石 イ 対岸の火事 ウ 魚心あれば水心 エ 馬の耳に念仏

問七 この文章には、次の一文が省略されています。この文章が入る部分を本文中の①～⑨から探し、数字で答えなさい。

【そうでなければ、園長がみずからそんな行動は起こさないでしょう。】

問八 本文の内容に合っているものを次のア～オの中からすべて選び、記号で書きなさい。

ア コロナに感染するのが不安なので、緊急事態宣言中きんきゅう せんげんは家から出ないほうがいい。
イ 子どもの学びのためにも、だれかを排除する選択をするべきではない。
ウ 思考を停止してだれかを排除しても、社会は変わらないので、問題は無い。
エ コロナは大変なことだが、その中だからこそ新しい発想を持つことができる。
オ コロナのおかげで、子どもからあこがられる大人に成長していくことができる。